

平成25年度 労働災害防止論文 金賞

労働災害防止対策への提言

北海道クリーン・システム株式会社 若山 旭

労働災害とは人が働いている以上、必ず発生する事故であり、それをいかに最小限に食い止め、事故件数を減らすかが重要であると考えます。私の会社では全社で一眼となって労働災害ゼロを目指し、日々業務に取り組んでいますが、私が日々働く中で他の職場の事故速報を幾度も耳にします。

何故事故は無くならないのでしょうか？事故が起きる度に会社全体でその対策を考え、本社から書類で各職場に通達され注意喚起と指導を促してはいますが、それでも再び同種の事故が発生しているのが現状です。事故が起きる原因は、個々人の意識レベルの低さであると私は考えます。本社が作成する事故防止対策の書類内容がどんなに熱意のあるものであっても、見る側がその事故内容について「気を付けなければならない重大なこと」と感じていなければ、また、その様な意識が無ければ事故は運良く一時的、一定期間無くなったとしても、無事故を継続することは出来ないと思います。

ではどうしたら事故に対しての意識を高められるのでしょうか。自分が実際に事故を起こさなければ自覚しないのでしょうか。

事故を起こしたことの無い人でも日々の業務の際にヒヤリ・ハットとした体験があると思います。そして、些細な体験であっても大事故に繋がる恐れがあるかもしれないと想像してみる

ことが重要で、何故それを起こしてしまったのかと原因を考え、二度と同じミスを起こさない様に意識し行動することで大事故は防げると思います。

警備員として働いている私が日々の業務の中で意識していることは、目に見える危険の予知は当然のことで目には見えない危険、つまり、もしかしたら大事故に繋がる恐れのある小さな危険を想定し、業務に取り組むことを心掛けています。これまで大きな事故を起こすことなく現在に至っていますが、常に労働災害防止を意識した行動を取っていることが今日まで事故を起こしていない大きな要因になっているのではないかと考えています。

また、当社では安全に関する三つの項目として、基本作業・情報連絡・感受性を重要視して掲げています。毎日の朝礼時に皆で唱和し業務に取りかかるわけですが、漠然と読み上げるのではなく、「今日一日無事故で業務をやり遂げる」といった強い気持ちで読み上げることで、その日一日個々人が高い意識で業務に取り組むことができると思いますし、無事故を継続することも可能になると考えます。

最後に、労働災害防止には、個々人が高い意識を持って仕事に取り組もうとする姿勢が労働災害を限りなくゼロに近づける何よりも大きな推進力に成り得ると考え私の提言としたいのです。

平成25年度 労働災害防止論文 銀賞

「無災害職場の根底にあるもの」

北海道クリーン・システム株式会社 越 後 恵理香

ビルメンテナンス業界で働く私たちにとって、欠かせない三本柱。それは「お客様」「体力」「思いやり」だ。現場から上がってくるヒヤリ・ハットの意見を通じ、無災害を目指すための基盤とは何かについて論じる。

毎月様々な現場から、私の元にヒヤリ・ハットした多くの体験談が届くが、気になる点はいくつかある。まず三本柱の一つ「お客様」に関する報告については評価の主体が他者にあるため事故と捉えられるものがあるということだ。

お客様が従業員のマナーを含め、どんな期待のもとに施設を利用されているのか。新人のうちは業務を覚えることに精一杯で、お客様の気持ちを慮ることは難しい。しかし経験の長い者は新人の頃の辛さを「共有」しづらくなっている。このことは事故や早期退職という悪循環に深く関わってくる。

次に、現場から提出された資料は全て、集約後全現場に周知を行っている。しかし、箇所は違えど内容が酷似したものが少なくない。これは現場においてヒヤリハットの教訓が十分に生かされていないことに他ならない。

最後に、体が資本である当社業務は、通勤災害、水分不足による熱中症など自己責任による危険はつきものである。しかし、業務の多忙さ、余裕の無さから自分のことは後回し、という状況は事実としてある。結果、例えば疲労により意識が朦朧としかけたという体験も「情けない」と感じ報告に至らない。また、私だけが辛いのではという疑心暗鬼に陥り、事故に繋がること

もある。自分だけで留めることはまさに悪循環そのものなのだ。

これまで問題点を述べてきたが、対策として望ましいものは何か。現場への働きかけとして、顧客満足度調査や、接遇マナー点検、新人トレーニングなどのフィードバックを元に、私は一つの結論を得た。

それは、現場長以下の従業員が新人育成、事故防止対策など会社の取組に積極的である職場は、事故が発生しにくいということだ。現場長がよく従業員の意見を聞き、意見交換会を開く職場。また自分に近い立場の人間と気軽に意見を出せる職場。そんな職場には笑顔が溢れ、親しみやすさからオーナー様からの信頼も厚く事故が少ないのである。

現場では日々お客様、オーナー様から多くのニーズがあり、それに柔軟に対応する姿勢が求められる。その声に応えるのは声をかけられた一部の人間だけではない。本社の人間も一丸となり、機会を見て職場に足を運び、従業員が感じているどんな小さな意見さえも、共有していかなければならないのだ。

本社としても、現場長向けの難しい資料ではなく、全ての従業員に深くその意味を考え職場全体で「共有」してもらうため、リーダークラスへの資料作成や研修の開催など積極的な推進が不可欠だ。

無災害職場を作っているのは他ならない「現場の従業員一人ひとり」であり、無災害職場の全ての基礎は「共有する力」なのである。

平成25年度 労働災害防止論文 銅賞

「労働災害防止対策への提言」

北海道クリーン・システム株式会社 佐々木 隼 加

「労働災害防止」それは、私達ビルメンテナンス業務に携わる者は、常に自分の心に刻み込み、心得なくてはならないことです。

私は、北海道最大の商業施設の一つである、JRタワー内の「札幌ステラプレイス」にて、マーメイドとしてお客様の案内、また、館内のフロア・トイレ清掃業務に勤めています。

館内には、小さなお子様からご高齢のお客様、北海道内や北海道外、また、海外など数多くのお客様がいらっしゃいます。私が館内を清掃する際、常に心掛けてることがあります。それは、お客様が館内で快適に過ごして頂くことはもちろんのこと、「お客様の安全」を第一に考え、清掃をすることです。

労働災害が起こる原因として考えられるのは、作業に対する「慣れ」と周囲の確認不足であると思います。私の実体験として、トイレ清掃を行っていた時のこと、トイレ内でトイレ入口付近の床をモップで拭き上げていた際、トイレ入口から小さなお子様が勢い良くトイレに入ってきました。私は、周囲にお客様がいないか、急にお客様が飛び出てこないか、危険はないかを予測し、周囲を良く見ながら床清掃を行っていたため、お子様との接触はなかったのですが、これがもし、作業に没頭し周囲を良く見ず清掃していたら、そのお子様と接触し、労働災害が発生したかもしれません。私は、改めて、作業に慣れてきても周囲に危険なことはないか予測し、周囲を良く見て清掃を行うことが、お客様

の安全に繋がるのだと、肌で実感させられました。

人は、気持ちにゆとりが出来るとどうしても気が緩むことがあるかと思います。その気持ちが緩みがちになり、作業に慣れてきた時が、一番恐いものと思います。

「労働災害」とは、遠い存在のようなもので、実は常に身近に潜むことだと私は思います。労働災害を発生させないためにも、身の周りに危険がないか予測し、常に緊張感を持つことが大切だと思います。労働災害はあってはならないこと。労働災害が発生してしまうと、お客様やオーナー様からの信頼が失われています。一度信頼を失ってしまうと、その信頼を取り戻すには、とても時間がかかると思います。

当社は、お客様が安心してご利用頂けるよう安全確保をすべてに優先することを心掛けています。今後も多くのお客様やオーナー様が安心してご利用して頂けるよう、日々、周囲に危険がないか予測し、常に緊張感を忘れず、マーメイドとしてお客様の案内・清掃業務に努めて行きたいと思います。また、お客様やオーナー様から愛される企業にするためにも、従業員1人ひとりが安全作業する意識を高め、基本作業・基本動作への徹底を図り、お客様やオーナー様の安全を第一に考え、当社一丸となり、「労働災害防止」へと全力で努めさせて頂きたいと思っています。

平成25年度 労働災害防止論文 銅賞

「安全巡視で危険予知」

北海道クリーン・システム株式会社 矢部 英喜

私の勤めている資源リサイクル工場は操業から5年目を迎えますが、操業当時と現在の資源ごみ搬入量と従業員数を比較してみると、一日平均約46m³だった資源化ゴミの搬入量は約35m³も増えて現在では約81m³の取扱い量になりました。

従業員数は創業当時の6名から9名に増えましたが、工場内の機械も新しい大型機械に変わったり、新規に増備した機械もあり、作業環境も当時とは随分と様変わりしました。

また、作業環境が変わったことにより、日常業務の人員配置から作業方法、作業手順や機械操作の選任等々を模索し、平行して危険箇所、危険作業を洗い出し、その都度に改善、指導をくり返しながらいきまで無事故に推移してきました。

しかし、今日まで無事故を継続できたのは危険箇所や危険行為が無くなったからだとは言いきれません。「床で躓いて転倒した」「ピンが足に当たった」などの報告がある現状を考えると運良く災害事故に至らなかったと判断するのが正しいのではないかと思います。

また、無意識に重量物を一番上に積み上げたり、廃棄物を保管場所以外の場所に置く等、まだまだ日常的な慣れから次第に悪慣行に陥り「これが普通、当たり前」と思うようになり、危険やリスクに気づかなくなっていることも歪めない事実です。

そこで私は、常に現場で作業する従業員の安

全を確保できるようにするために安全巡視を行うこととしました。

安全巡視はあらかじめ、巡回日時や巡回点検箇所を決めておくのではなく、巡回対象施設の点検項目と点検ポイントのチェックリストを用意しておくことにより、工場以外のリーダーや、管理者が都合の良い日時に何時でも巡回できるようにしました。そうすることにより、現場従業員は常に見られることを意識した適度の緊張感と問題意識を持つようになり、整理・整頓・清掃に心掛け、「考動」（考えて行動）した作業をすることができます。

また、巡視員には作業ごとに発生する可能性のある災害を特定し、日常の仕事とは異なる目線、危険があるのではないかとという目線で職場を観察してもらい、機械や設備は故障する、人はミスをするを前提に作業現場を視察してもらう。

また、巡視員が現場で作業者に声をかけることで不安全行為だけでなく、挨拶や作業の進捗確認なども行い、現場でのよい関係を築くこともできます。

安全管理に正解はないと言われていますが、いつ何が起こるかわからない今日、新たな安全巡視チェック体制により作業の無理・無駄の問題点を正確に捉えて危険予知した改善や指導を推し進めて事故のない明るい職場環境にしていきたいと思っています。

平成25年度 労働災害防止論文 佳作

周りがみえると、事故を防げる

株式会社東洋建物管理 辻 本 英 樹

今年は、例年にも増して気温が高く、湿度も高い。外でのイベント等は本当に苛酷で、大変である。大事には至らなかったが、管理する者として、周りの従業員に対しての気配り、目配りの重要性について、痛感させられた事案が発生したので報告致します。

先日、大型のイベントに警備員を配置し来場者の対応を行なう機会がありました。天候は曇り空、時々陽がさすものの風もあり、内心良かったと思っていました。時間の経過とともに、気温も少し下がってきた気がします。

警備員は、外の各列班と出入り口の対応班に分かれて業務を行っていました。

突然、部下の一人から具合が悪いと連絡が入りました。熱気に具合が悪くなったとのことで取りあえず、休憩させ、水分を多めに取らせる指示を行いました。

自分は、外周の誘導で休憩も無く配置について仕事を行っていましたが、脱水症状が出るとか、熱中症になりそうとかは全く感じられないくらい、言わば順調に進んでいただけに、「びっくり」したのが本心でした。

しかし、それは外回りに配置された極一部分の隊員が色々な条件が揃い、過ごしやすい状況であっただけで、他の箇所取り分け出入口の内部に配置された隊員は、来客の熱気、気温、湿度で想像を超えた環境にあったのでした。幸い、すぐに回復しましたが、自分の置かれた状況を

そのまま全てに当てはめ考えてしまった、責任者として、とても反省しています。死亡するケースもあることから、今後は、細部まで調査して備えるようにしたいと考えています。特に、重要と思われる当社の対策を記載いたします。

- ① 水分を補給させる為、十分な飲み物を準備する。
- ② 塩あめを必ず持参し、隊員に数個配布。
- ③ 適時、休憩を取り体調を整える環境作り。
- ④ 隊員の体調管理、特にイベント前日等の体調で、翌日の勤務の判断を的確に行う。
- ⑤ イベント中等の管理職巡回時に、必ず配置警備員に声を掛けて、異常の有無や体調の状況等も確認する。

警備員の病歴等も勘案する必要がある。重要なことは、管理職が警備員を選抜し、その警備員を配置し、その場での業務を行う環境等を把握、総合的に判断して休憩交替要因の増員、休憩の場所、飲料、塩分補給等、警備員に係る全てのことを考えた、事前調整の在り方に、心から反省し、今後に反映してまいりたいと存じます。警備員が救急車で搬送される事態になれば、契約先様には多大なご迷惑をお掛けすることとなることでしょう。

管理職としての責任、警備会社としての責任、警備員の命を預かる者として、自覚と責任を持ち、協力してまいります。

平成25年度 労働災害防止論文 佳作

「安全対策は“今でしょ”」

北海道クリーン・システム株式会社 荒 井 慎

東日本大震災により引き起こされた福島第一原発での想定外の重大事故が起こったことを教訓に、従来の安全基準で定められた以上・以外の事象が起こる場合の論議が交わされていますが、私の職場である産業廃棄物処理工場でも、我社で起こった過去の事故例を基にしたイラストを使って毎月一回、朝礼後に上司が中心となって危険予知訓練を行っております。

はじめは、イラストの中に見える危険にしか目がいかず、他に何が潜んでいるのか、どんな危険が想定されるのかまでは見ることはできませんでしたが、今では想定外の危険を見い出したり、予知した危険の対策や通常あり得ないことまで議論されるようになり、危険予知訓練により従業員の安全意識の高まりが感じられます。

さて、私の職場に今年の2月にプラスチック粉碎機が導入され日々作業が行われていますが、はじめは慣れない作業でもありペットボトルと缶の分別やベルトコンベアの高所でのメンテナンスなども慎重に行っていましたが、缶やビンと一緒にベルトコンベアに流して慌てて非常停止スイッチを押しに制御盤まで走ったり、高所での機器のメンテナンスも不安定な姿勢で行われるなど慣れの作業が見受けられるようになりました。

この不安はみんなが同じように抱えていたこともあり、労働災害防止の最優先事項として取組むこととし検討を進めました。

従業員同士で粉碎機での作業やメンテナンス

に潜んでいる危険を予知し、各々が持っている知恵や技術を出し合い検討した結果、意外にも簡単に意見がまとまり改善策をたてることができました。いつやる？ 今でしょ！ さっそく実行に移しました。

改善策1. 非常停止スイッチの増設

御盤から配線を延長し作業者の手の届く位置に増設したことで工場内を走る危険性もなく作業の効率性もよくなりました。

改善策2. 高所作業用足場の設置

メンテナンス時の高所作業用に建設用足場資材を利用して作業ステージを組立て、誰でも安全な作業が行えるようになりました。

ステージの組み立てに当たっては、耐荷重や安全帯、さらに安全帯取り付け金具、装置室入り口には「高所作業中」の注意喚起ポスターの作成など、ありとあらゆる危険を想定した事故対策を自分達で考え、自分達で実行したことで、常に安全を意識することが身に付いたと確信しています。

作業現場は常に危険と隣り合わせであり、日々の作業でも常に危険を予知しながら作業すること、安全に作業が出来る環境作りが必要と考えています。

今後も全員で危険を共有し、気がついたことは「いつやるの？」ではなく直ぐに対策・実行し、無事故継続で明るい職場、家庭を目指し、安全に対する感受性を高めながら、労働災害防止に率先して取り組んでいきます。

平成25年度 労働災害防止論文 佳作

「安全意識向上を目指して」

北海道クリーン・システム株式会社 小 野 貴 裕

私の職場は各事業所から出される廃棄物の収集運搬業務と発泡スチロールや缶・ビン・ペットボトル、ビニール等を当社工場に搬入して、分別、破碎又は溶解、圧縮をして再資源化の中間処理業務を行っています。その中で私は、工場業務に従事していますが、今年の4月にリーダーを拝命し、嬉しさと同時に責任の重大さを感じました。

私は改めて工場の安全と改善について考えてみました。

はじめに、収集先の増加に伴い、工場への搬入量が以前と比べて約2倍近くも増加していて、作業量も比例して忙しくなっている状況と、新型機械の設備や新規の機械の増備などによる作業環境や作業手順の変更などがあり、この現状に危険箇所や危険作業が無いのかを点検してみたところ、搬入した缶やビンが床に散乱したままの状態の中で作業をしていたり、床が滑って転びそうになってもそのままの状態にして作業をしている。または、無意識にガラス瓶の入ったフレコンバックとカゴ台車の狭い間を無理に通り返したり、重量物を高い所に積み上げる不安全行為が目を見ました。そこで私は、このような危険箇所や不安全行為を解消するためにはどうしたら良いのか考えてみました。しかし、なかなか妙案もなく思いあぐねていたところ、

上司から一人で悩んでいないで工場の人々と一緒に検討した方が良いとのアドバイスがあり、みんなと話し合ったところ、それぞれの作業動作が重複している時間が多々あり、その時間を省略すれば余裕をもった行動ができることの結論に達し、「作業計画書」を作成して実施することにしました。作業計画書は、担当作業ごとの作業内容が把握できるため、おのおのが作業に責任を持ちムリ・ムラ・ムダな作業を少なくすることができした。また、担務別の作業内容が細かく把握できるので作業時の危険も予知することができます。今では朝礼後にそれぞれが作業計画書に安全宣言を書き込んでから作業にあたり、先を見据えた作業、臨機応変な作業ができるようになり、安全に対しても目配り、気配りができるようになってきました。

私は、この問題解決で大切なことを学びました。それは、仲間とのコミュニケーションの大切さです。自分ひとりであれこれ策を巡らせていても中々先へは進めません。仲間と検討することが問題解決の近道であることを悟りました。

私は、これからも決して目を閉ざさず、決して耳を塞がず、決して口をつぐまずに大切な仲間の良き相談相手となり、良き模範者となるように日々努力いたします。

平成25年度 労働災害防止論文 佳作

「ヒヤリハット体験と対応」

北海道クリーン・システム株式会社 佐 藤 篤

多数の人が出入りする私の職場において、ヒヤリハットは、誰もが体験する事象であり怪我や事故の前兆でもある。

今年は安全作業で頑張ろうキャンペーンが終了した途端、次々と事故が起こっている気の緩みと言ってしまうえばそれまでだが、職場の安全管理体制を問われかねない事態だ。そこで私自身が体験したヒヤリハット体験とそのような事象に直面しないようにするためにはどのような対応が必要か自分なりの意見を書いてみようとする。

まず、私自身が体験したヒヤリハットの体験について紹介しよう。それは今年の5月だった。時刻は朝からの勤務が始業してまもなくだったので9時30分ぐらいだったと思う。私はひと月に一度ある設備点検の最中だった。通路などの共有部の点検は終わっていたがテナント不在により思っていたより順調に進まず、開店作業に遅れそうで焦っていた。手元の図面を見ながら点検作業の終わっていない店舗を確認しながら移動しようとしてバックヤードから出ようとした時だった。扉の前に配送業者の台車があり、足がぶつかって転倒しそうになり、ヒヤリとしたことがあった。この時は開店前だったので周囲に誰もおらずすぐに体制を立て直せたため事なきを得たが、もし店舗スタッフや配送業者がいたらと考えるとぞっとする経験だった。

次の体験はこれも今年のできごとで4月ぐらいの出来事だった。それは巡回中にバックヤ-

ードから店舗側の通路に出ようとした時だった。手元にあったメモを確認しながらつい確認を忘れて扉を開けてしまい通行人にぶつかりそうになりヒヤリとした。幸い通行人は気にする様子もなくそのままいってしまったが、一步間違えば相手に怪我を負わせかねない体験だった。

この二つの体験に共通するのが慣れと油断だ。一つ目は慣れた作業であり時間配分を間違えていたことと、こんな場所に荷物を置かないだろうと油断があった。二つ目は慣れた巡回中に、「ながら作業」を行いこれくらい大丈夫だろうという油断があった。そしてまさかこのくらいで自分がという思い込みもあった。

この二つの体験を踏まえ私が必要だと推測した対応がKYT訓練だ。これは作業中にどんな危険が潜んでいるか探し出す訓練で他の企業でも大きな成果を上げているという事例がある。さらに今年作成したハザードマップの活用だ。これは館内の危険が潜んでいそうな場所を写真や地図で解説しており非常に使いやすいこの二つを活用すれば間違いなく、ヒヤリハットは減らしていけるだろう。

最後にこうした商業施設でのヒヤリハットの多くが第三者が関わることで多くリスクマネジメントの観点からも軽視できないものが多く含まれている。このことを踏まえて職場全体の意識向上と統一のために創意工夫を重ねていきたい。

平成25年度 労働災害防止論文 佳作

超高齢社会を生きる

北海道クリーン・システム株式会社 山 中 清

日本人の平均寿命がどんどん延びていて、超高齢化社会に突入している。つまり、現役をリタイアした後の時間が膨大になりつつある。ちなみに現役時代の休日数と、リタイア後の休日数？を比較してみた。現役期間を二十歳から六五歳までとし、寿命を八五歳までとしてみた。現役四五年間の休日は年休を考慮しても五〇〇〇日ちょっとである。リタイア後の休日数？は二十年間で七三〇〇日となる。

なんとリタイア後の休日数？の方が圧倒的に多いのである。この長い長い期間をいかに健康で楽しく過ごすかは、現役時代のうちに築き上げられるかどうかにかかっている。

私が現役である今心がけ、また実践していることを開陳したいと思います。

○健康診断の結果を理解する

世間諸氏の皆さんは毎年の定期健康診断が近づくたびに、少しでも数値を良くしようと努力し、それが済めばまた普段の生活に戻ることをしている方が多いのではないのでしょうか？

それは全く逆で、むしろ普段通りの生活をしたまま診断を受け、その結果をいかに克服するかのほうが大切だと思います。そしてその結果をいかに普段の生活の中で改善するか、私もご多分に洩れず生活習慣病の兆候が現れてきましたので、その対策を少しずつ実行しています。

○肥満度と高血糖値との関係

「あなたの体は、あなたの食べたもので出来

ている」というキャッチコピーがありますが、まさにそのとおりだと思います。

血糖値の高い方は、毎日体に取り入れる食材をちょっと工夫するだけで結構血糖値を下げることができます。血糖値が高い体は痩せにくい体です。血糖値と肥満度はある意味相関関係にあります。白米には玄米を入れて、食パンよりライ麦パンを、肉類は脂肪控え目で適量に、野菜は多めに酢を併用しましょう。

野菜はジャガイモ、ニンジン、カボチャは少し控え目に。

あとは運動を普段の生活の中にうまく取り入れること。通勤時間を有効に使うため、階段を通る、帰り道に少し遠回りのコースを作る。帰宅後に少しストレッチを取り入れ、無理のない範囲で少しずつ回数を増やす。

歩く距離を少しずつ増やし、できれば一駅前で下車して、一駅区間歩けるようになれば上出来です。また、ストレッチも最初は各5回ぐらいから始め、筋肉痛が治ったら1回ずつ増やしていく。決して無理はしないこと。無理は諦めにつながります。継続は自信につながります。

普段の食習慣に工夫を凝らし、運動習慣を持続させる。この二つの改善で体重が減ってきたらあなたは生活習慣病の克服者となれます。

諦めずにじっくりと取り組みましょう。そして長いリタイア後の人生を明るく楽しいものにするために、今日から実践しましょう。

平成25年度 労働災害防止標語 入賞者

金賞

危ないと 気づく力も プロの技

東京美装北海道(株)釧路支店 松 澤 恒 治

銀賞

慌てずに 予知予知歩きで 事故はゼロ

協和総合管理(株) 斉 藤 千 秋

慣れるほど 忘れてしまう緊張感 初心に戻って 安全確認

日本クリーン北海道(株) 若 山 賢 一

銅賞

決めた事、守るあなたが、守られる

太平ビルサービス(株)旭川支店 首 藤 和 浩

その危険 みんなに伝えて 事故防止

北海道クリーン・システム(株) 山 本 一 郎

慣れた頃、自信と過信で、増える事故

北海道クリーン・システム(株) 高 坂 孝

佳作

「ありがとう」 感謝の気持ちと みんなの笑顔

(株)ベルックス 相 馬 恵 美

あいさつに 響く心は 信頼感

北菱産業埠頭(株) 神 林 武 寛

あせらず無理せず油断せず みんなで目指そうゼロ災害

(株)ベルックス 成 田 大 輔

あなたのヒヤリはみんなのヒヤリ 一人一人が安全確認

北海道クリーン・システム(株) 近 藤 順 子

あわてるな 安全は 時間と心のゆとりから

(株)ベルックス 白 川 健太郎

安全は 目配り 気配り 思いやり

北海道クリーン・システム(株) 山 中 秀 子

危ないぞ 素手で拾うな 針刺し注意 東京美装北海道(株)北見支店	笹 島 謙 一
気をつけよう 油断・過信が事故を呼ぶ 習慣づけよう危険予知 北海道クリーン・システム(株)	我 妻 直 哉
気を抜くな 毎日変わる危険箇所 徹底するぞ危険予知 (株)キタデン	刈 田 圭 一
繰り返す 仕事の中に 危険の芽 初心忘れず KYT 北海道クリーン・システム(株)	寺 林 康 樹
けがで 泣くより 無事故で笑え 今日もめざすぞ ゼロ災害 日本クリーン北海道(株)	佐 藤 昭 吉
事故のもと 慣れと慢心 思い込み (株)ベルックス	中 村 敏 男
その場限りの安全は その後の事故の導火線 北海道互光(株)	小田島 睦
慣れるほど 心のすきまに ひそむ事故 (株)ベルックス	菊 池 和 子
二度ある事は三度ある 一度あったら再確認 協和総合管理(株)	佐 藤 清 実
人に頼るな任せるな 安全作業は自分から 東京美装北海道(株)網走営業所	鎌 田 勝 義
「まあいいか」 慣れと過信が事故まねく 東京美装北海道(株)網走営業所	阿 部 芳 文
面倒と 思う気持ちが 事故のもと 中央ビルメンテナンス(株)	清 水 裕 明
予知できる 感性鍛えて 事故防止 北海道クリーン・システム(株)	野 村 俊 明